

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800909				
法人名	中央ケアサービス株式会社				
事業所名	なでしこ大紀				
所在地	三重県度会郡大紀町崎181-4				
自己評価作成日	令和 2年 2月 22日	評価結果市町提出日	令和2年4月10日		

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosoCd=2472800909-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2 年 3 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在は、前回の評価時に指摘された項目の一つ、入居者のご家族との意思疎通の手段を増やす一助となるよう、毎月の手紙の写真掲載に力を入れています。まず、施設宛のハガキをご家族に送付して、ご家族の疑問や要望を受けやすいようにしようという試みは失敗しました。ご家族は、面会などで利用者の状態を直接確認して、そこで本人の気分がよさそうであれば、あとのことはあまり問題視しない傾向があります。そのご気分を確認できるよう、イベントや日常の風景を撮影した写真を、手紙に多数掲載するようにしました。笑顔の説得力が、面会の代わりになればと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「なでしこ大紀」は大紀町のほぼ中央部、高い山と大きな河川に囲まれた自然豊かな環境のなか、2006年3月に開設された今年で15年目を迎えた事業所である。利用者は2ユニット18人で、平均年齢88歳ながらいずれも年齢以上の元気な様子が窺え、同じ建物に併設されているデイサービスの利用者との交流もあり活気にあふれている。また職員は経験豊かなベテランが多く、5ヶ条からなる事業所理念を念頭に日々の支援に意欲的に取り組んでいる。事業所は地域の老人福祉の拠点を自認しており、認知症カフェの開催や夏祭り、小学校への出前授業など地域と共にあることを目指す今後益々の発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	提示し、毎日の朝礼で唱和している。会議事項書の下部に毎回印刷している。サービス提供の原点として大切にしている。	5か条からなる事業所理念は10年ほど前にオーナーが定めたもので、職員はもちろん利用者家族など事業所を訪れた人達にも分かるように、玄関・事務所へ掲示している。また会議事項書にも常に表示し大切にされている。職員はこれをよく理解しており日々の支援の拠りどころとしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントへの参加、移動販売を依頼しての買い物を、継続して実施している。地元中学生が文化祭前に歌を披露したり図書委員が紙芝居をしてくれることも。	事業所として殊更自治会に入会している訳ではないが、オーナーが自治会の役員であり関係は極めて良好である。自治会の行事には必ず参加し、また事業所の祭りなどには近所の住民がこぞって参加するなど利用者との直接的な交流も見られ、地域の一員として自他ともに認めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なでしこサロンの開催や、学生の職場体験の積極的受入れなど、努力している。地域の中学校から依頼を受け、福祉の話をしたり認知症の紙芝居を行うことも。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で開催し、困っていることは積極的に助言をいただいている。前回の外部評価を受け、事前にテーマを決めるやり方も試したが、元に戻した。	前回のステップアップ項目であり様々な立場の参加者の呼び掛けを行ってきたが未だ思うに任せない状況である。そんな中、特筆すべきは町議会議員が委員として毎回参加しており、福祉関係以外でも行政との橋渡し役になるなど運営推進会議を通した事業所のサービス向上に役立たせている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加いただき、現状報告し、意見を伺っている。新規デイサービスセンターの立ち上げに際しても積極的に助けていただいている。	事業所から役場本庁までは車で15分程で月3回以上は訪れ、書類の提出や事業所としての相談、運営上の疑問点など様々なやり取りをしている。最近では新型コロナウイルスに対応したマスクの配布を受けたり、逆に小中学校の課外研修の受入れをしたりと互いの協力関係は良好に保たれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指導に沿って取り組んでいる。日中はほとんどの時間帯で施錠せずに過ごせている。危険度が高い状態の判断にいつも悩む。	公の組織が発行している「防止マニュアル」を参考に職員間で議論し、独自の「防止対策指針」を策定して拘束防止に取り組んでいる。今のところ玄関は施錠していないが、時々ま外に出ていく利用者もあり危険回避と拘束防止のせめぎ合いの中で職員の努力が窺える。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習等に参加し、会議の場で周知徹底している。発言内容や表現の仕方にばらつきがある。是正のため平日夜に研修を実施するなどの対策をしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習等に参加し、会議の場で周知徹底している。 利用者やご家族とは、利用開始前に時間をかけて確認あっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明のため、十分な時間を取っている。説明不足によるトラブルやクレームは、今のところなし。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議での相談、面会時の近況の報告と要望の確認、ハガキを利用した疑問点の解消、苦情窓口係の設置。家族代表の会議参加は、R1年9月から途絶え、新しい人を探している。	利用者家族の意見や意向の聞き取り機会は概ね面会時であるが、計画説明とケアの要望に時間が費やされているのが現状である。過去にはハガキを利用した疑問点の解消や、最近ではメールでのやり取りでの意見聞き取りを試みたが、まだもう少し工夫が必要かと考えている。	利用者とその家族の意見は事業所運営には欠かせないものであり、これまで努力されてきたメールなどの手法を更に研究すると共に、出された意見・要望を運営に反映させることのできる事業所としての仕組み作りに期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、職員会議、連絡ノート、要望票、年一回の感想文、自己評価への全員参加などの機会を設けているが、個人的な相談の形で上がってくることがほとんど。	運営に対する意見も含めて月1回の職員全体会議で様々な意見を出し合っている。また年1回、職員は1年間の総括として「反省・決意等」を込めた感想文を提出することとしており、この中で運営に対する意見出しも可能となっている。その他、会長による年1回の職員面談を実施するなど職員意見を聞く機会を多く設定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤日や就業時間帯の要望には最大限に対応。個人的な事柄や人間関係の相談も個別に時間を取って対応、配慮を実施。精神的に打たれ弱い職員にも配慮しているが、他職員に負担がかかることも。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	セミナーや研修会の周知と積極的な参加を呼び掛けている。会議では内容の報告や、看護師によるミニ勉強会を実施。研修は参加者が偏るため、あらたに施設内での研修を企画、実施した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役職者が県グループホーム協議会に役員として参加。研修日程を会議で周知、報告と取り入れの検討を実施。地域の同業者主催の研修に協力も行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族による見学を積極的にお勧めしている。予約・契約それぞれで相談と説明のための話し合いに十分な時間を取っている。笑顔と声の響きを大切に、家庭的な雰囲気づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族による見学を積極的にお勧めしている。予約・契約それぞれで相談と説明のための話し合いに十分な時間を取っている。初期の家族の協力が重要とお願いし、手助けしていただけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、CM、担当を含めて本人中心のグループで話し合い、偏らない判断ができてい る。誤解のない話し合いができていますが、具 体的な要望はリハビリに関連したものが多 く、苦慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員それぞれが笑顔と声の響きを大切に、家庭的な雰囲気づくりに取り組んでいる。入居者それぞれに役割があるよう配慮し、「ありがとう」との感謝の声かけのできる支援が続けてできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主に初期の協力依頼、毎月のお知らせ、イベントへのお誘い、面会時の報告と写真撮影など、「家族の絆を再構築するお手伝いを」との思いで努力し、喜んでいただけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの病院や歯科医の継続利用、墓参り、お見舞い、務めていた職場訪問、面会時の声かけと写真撮影、地域行事やイベントへの参加など、努力している。	利用者の全てが近隣の出身であり、馴染みの場所が共通している。町内の名所や観光地的な所へ皆で出掛けることも多くあるが、逆に友達や元の職場の同僚などが訪ねて来ることもある。事業所としてもこれらを大いに歓迎しており入居前の関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性を考慮に入れた席順や組み合わせの配慮などができている。「行くと泣いて喜んでくれる」と喜ぶデイ利用者がいる反面、親戚だと誤認して借金返済を迫る症状などもあり、様々。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居時は寄せ書きと千羽鶴を贈り、可能な限り見舞って様子を伺い、会議で報告し合う、撮りためた写真を印刷して贈るといった努力を継続して行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理に起こさない、入浴日や時間帯の変更対応、受診病院の希望受け入れなど努力している。症状進行し、危険や常識と折り合いがつかない場合も、できるだけ本人の希望に沿うように配慮している。	利用者個々の行動パターンを職員全員が理解する様心掛けており、新しくパターンが増えた時などは「気付き帳」に記録して全員で共有し支援に活かしている。利用者の本音がどこにあるのか苦慮するところであるが、入浴時や就寝前などの機会を捉え聞き取ることに努力を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録を取り寄せ、周知している。特に注意すべき点は連絡簿に記載する。施設での様子との差異についても、報告と話し合いを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	書類への記録と確認、朝夕の申し送り、連絡簿などを活用しており、全職員が現状を把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録と診察結果を基に、話し合いや会議の開催、家族への連絡と相談など、必要な手順を踏んでいる。最近では加齢や退院直後で症状悪化が顕著な利用者の作成時期の見極めに苦慮していた。	利用者は併設のデイサービスを経て入居してくることが多く、その分初期計画の作成がスムーズに行えている。モニタリングはケアマネジャーが行い、それに基づいて全員でケア会議を開催しており、更に必要に応じて医師・看護師も参加するなどチームとしての計画づくりが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要なだけの記録はつけているが、記録と介護の時間配分の問題あり、記入時間短縮に取り組んでいる。用紙を改善、変更し、最適なやり方を模索中である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	送迎や受診希望、墓参りやおやつのリクエストなど、実行可能な要望には全てに対応している。夜間は寄り添いたいとのご家族の希望を尊重し、泊まり込みにも応じている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	詩吟の教室を慰問の先生に依頼したり、地域中学での認知症の授業で、中学生にできる支援を説明したりしている。近隣の協力あり、施設を抜け出して線路を歩く入居者を助けてくれたことも。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に協力いただきながら全ての要望に応じている。往診はもちろん、突発時の連絡に休日対応してくださるなど、医師には大変な配慮をしていただいている。	利用者の3分の2が事業所の協力医をかかりつけ医としており、月2回の訪問診療が行われている。その他の受診は施設が対応している。緊急時は看護師・医師などの連携により適切に判断されており、総じて医療的には充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは、たとえ休日でも連携・対応を取れる態勢を保っている。さらに、全員が記録や報告を確認して職務についており、連絡簿などの活用で、緊密な相談と連携ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のサマリーでの情報共有と、疑問を放置せず相手に確認するといった基本部分は、しっかりとできている。地域医療多職種連携の研修にも多くの役職者が参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の話し合いでの確認に始まり、かかりつけ医からの予測と指示を受け、容態の変化ごとにじっくりと時間を掛けて家族の意向の確認を繰り返し行っている。	看取りは殆どの入居者が希望しており事業所としても実施の方針である。家族には入居契約の時に説明する他、状況変化の度に意思の確認を行っており、昨年は2件の実績があった。実施マニュアルに従い職員研修を行うなど施設長を始めとするベテラン職員を中心にその体制は万全である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	円滑な対応のためのマニュアルを作成。さらに不定期に訓練実施。入院時に「対応が適切だった」と医師から褒めていただくことが増えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練、協力体制、柔軟対応それぞれに、過去のレベルが維持できている。災害時のマニュアルについては、より実践的にするべく試行錯誤している。	年2回、避難や初期消火等をテーマに職員と一部の利用者を含め災害訓練を行っている。最も危惧される災害は道路を挟んだ大内山川の洪水であるが、素早く全員が避難できるよう運営法人が新たに建設するデイサービス事業所を第1避難場所として計画である。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	知合い多く、親しみと尊重とのバランスに苦慮。笑顔と優しい声の響きを大切に、人生の先輩として尊敬の念を持つようにしている。声かけ内容や表現のしかたにばらつきあり、是正に取り組んでいる。	利用者の呼称は特に気を付けている点で、ある講習会をきっかけに親しみが高じてなれ合いにならないよう議論し是正に取り組んでいる。またトイレや入浴の介助など利用者にとって何が大切で職員としてどうあるべきかを日々振り返りながらより良い支援となるよう努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全職員が家庭的な雰囲気づくりを意識し、実践している。要望に対して迅速に応じることで満足度を上げる努力を続けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床就寝時間、日中のリビングへの移動、入浴時間や順番の調整、余暇活動参加など、他入居者との調整が必要なものについてもできる限り聞き入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り、髭剃りなどのチェックはもちろん、衣類は複数選択してもらえるよう配慮。マニキュアや化粧を楽しむ機会も設けている。福祉ネイリストに来ていただいたことも。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、お盆拭きなどと共に、お好み焼きやかき氷などをみんなで作成する機会も作っている。席順や内容の要望などには全て対応済。	食事は3食とも事業所内での手作りであり、その時々での行事や季節に合ったメニューが考えられている。利用者の役割としてはテーブルを拭くなど準備の一部を手伝うことであるが、一緒に作り皆で食べる喜びのある食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を基に支援を行っている。往診医は、食事への不満から関係性を損なうことのないよう、食事制限は心がける程度で、薬での調整が中心。刻んだうどんでも窒息する事件あり、より慎重に対応中。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り自立を促し、出来ない部分のみ支援することができている。全体的に高齢化、衰えが進行し、優先度が落ちたため、歯科医受診の機会が減った。地域の歯科往診医は廃業した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を基に、早めに声かけをして失敗を減らし、失敗しても責任を感じさせない対応を心掛けている。PWC設置、撤去、オムツやパットの使用の判断は、本人を中心にした個別支援ができています。	排泄に関しては利用者の半数以上が自立しており、残りについても何らかの介助は要るものの全てトイレでの排泄ができるよう支援している。普段から特に訓練的なことはしていないが、一人ひとりの習慣やパターンを管理し、キメの細かい個別支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	病状に応じ、運動、水分補給、献立の工夫などを継続して行っている。3日排便無しを目安に服薬を検討し、7日で体調を見て受診、を目安にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人との事前相談の上で曜日を定める。さらに延期や拒否、シャワーのみの要望、順番への要望、入浴剤の使用など、家族の要望に反しない限り、ほぼすべて受け入れている。	入浴は週2回を基本としているが、利用者個々の状況により必要や要望がある場合にはその都度対応している。設備的には2ユニットで個浴が2カ所、リフト浴が1カ所あり、利用者それぞれの状況に応じた支援が来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の掃除、整頓、空気の入替え、汚れたシーツの随時交換、個々の好みの把握、見守り、眠れない方への飲み物や軽食の提供、おしゃべり相手といった、基本的かつ柔軟な支援ができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	閲覧できる服薬一覧の作成、変化の観察、医師への相談、薬の変更の周知徹底、粉末への変更依頼などができている。服薬拒否のある場合も、種類によっては医師に確認の上、柔軟に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に状況を把握し、仕事の手伝いや、散歩、外出、絵画、書、切り絵、塗り絵、器具運動、カラオケなどの支援を実施。午前午後の体操で運動意識を高めたい。魚釣り、投げ輪、カルタなども定番に。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、外泊、外食、買物、墓参、ドライブ、イベント参加など、支援、努力している。玄関前のベンチも日光浴に活用している。加齢により、散歩への意欲が落ちている。	利用者の体力的な衰えもあり外出の機会は年々減ってきているが、年中行事のお花見や町の文化祭、保育園のおゆうぎ会などには出掛けており利用者の大きな楽しみとなっている。外食や墓参りなどは家族が対応している。その他、日常的には広い事業所の庭で多くの利用者が外気浴などを楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されていない方がほとんど。少額を所持されている方から、お礼として金額の手渡しがあるが、全て記録し、ご家族にお返ししている。金融商品の相談には、一般論で応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族同意があれば電話を自由に使ったり気軽に職員に頼んでいただけるように配慮している。加齢により、手紙を依頼される利用者がいなくなった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、空気の入替え、花や観葉植物の飾りつけ、コピー写真の貼り付け、作品の展示などを実施している。音、光、温度等は、状況に合わせて調整している。PWCの匂いが設置している部屋に籠ることがあることに対応中。	広い玄関の左右に2つのユニットの出入口があり、廊下からリビングへと続く高い天井は明るさと開放感にあふれている。2つのユニットが事務室やキッチンを含んで左右対称に配置されており、見守りや利用者同士の移動、交流に安全で便利のように工夫して造られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人が居て、にぎやかなのがテレビ前、ゆったり新聞を読めるのがテーブル、日当たりのよいのがソファ、といった場所ごとの特徴を入居者が理解しており、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込み、家族写真を飾る、身体レベルの低下に合わせてその都度ベッドや備品を揃える、マットを敷くなどの対応を迅速に実施している。	居室は6畳程度であるが外光の取り入れも充分で、特に出窓部分が良いアクセントになり奥行きを作っている。昼間は午睡や休憩、また読書など思い思いの過ごし方をしている。掃除は毎日職員が行っており、清潔に保たれ居心地よく過ごしやすい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドやマット、布団の選択や使用感への配慮、PWC設置と撤去、レクへの声かけ、お風呂待ちの席の作成など、可能な限り配慮をしている。		